



士買甘藥增稅三斤  
陳情書

2810





賣藥増税ニ付キ陳情書

内閣総理大臣伯爵大隈重信

謹啓  
君閣下ニ呈ス

聞ク屢ニ據レハ政府ハ増税ノ方法トシテ  
賣藥印紙税ヲ幾倍ニシ二百萬圓ノ財  
源トセントスト果シテ聞クカ如クナラハ

第一ニ不當ノ課税ナルヲ

第二ニ豫期ノ收入ヲ得ル能ハサルヲ

第一 何故ニ不當ノ課税ナリヤト云フニ抑  
賣藥ハ中等以下ノ社會ニ於テ據リテ

大正十一年四月  
侯爵郵寄  
贈

以テ疾病ヲ療治スルノ要具トシテ需用  
セラル、者ニシテ彼ノ酒煙草香粉等ノ  
如キ嗜好品驕奢品即快樂ノ爲ニ供  
給セラル、者ト同一視ス可キ者ニ非ラス  
痛切病苦ノ際ニ非レハ誰カ之ヲ需用  
スル者アラン然ラハ則疾病ニ苦シミ創  
痍ニ呻吟スルモノニ向ツテ此過重ナル關稅  
ノ負擔ニ服セシムルハ苟モ人心ヲ具スル者  
ノ忍フ能ハサル事ト謂フヘシ是即膏藥  
印紙稅ハ不當ノ課稅ナリト謂フ所以ナ

リ前舉ノ理由ニ據ル時ハ独リ今回ノ  
増稅ヲ不當ナリトスルノミナラス從前一  
割ノ課稅ト雖ハ氏不當悖理ノ甚クシ  
キ者タル知ルヘキナリ

第二 何故ニ豫期ノ收入ヲ得ル能ハサル  
ヤ、査査スルニ膏藥印紙ハ所謂間接稅  
ナルヲ以テ其負擔ハ一ニ需用者ニアル者、  
如クナレバ膏藥ハ十中ノ八マテハ委託  
販賣ノ習慣ニシテ即賣リ上ケ金ヲ以テ  
原價ヲ支拂フコト成リ居ルヲ以テ今俄ニ

加倍ノ重税ヲ課スル時ハ營業者ハ相  
繼テ廢業スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク需  
用者モ亦俄ニ其價ヲ高ウスルノ結果大  
ニ其需用ヲ減スルニ至ルヘシ然ル時ハ改  
府増税ノ目的ヲ遂クル能ハサルノミナラス  
却テ減少ノ結果ヲ見ルハ炳焉トシテ  
明ラカナリ

按スルニ賣藥印紙ハ明治廿三年ニマリテ  
ハ四十兆萬圓今廿六年ニハ五十餘萬圓  
世年度ノ豫算ニ在テハ八十三萬圓ニ上

レリ此現象ヲ視テ尚此上幾多ノ増税  
ヲモ爲シ得ヘシト信スルカ如キハ實ニ皮  
相ノ見ト云ハサルヲ得ス何トナレハ近時醫  
藥學術ノ進歩ト共ニ賣藥ノ調劑モ  
昔時ノ艸根木皮ノ類ニアラス有効確  
實ニシテ中等以下貧病患者ノ必需タ  
ルヲ以テ我國ノ民度ニ適スルカ故ニ漸々  
需用ノ多キヲ致スニ至レリ然ルニ今ヤ俄  
ニ其税ヲ加倍セントスルカ如キハ無謀モ亦  
甚タシト謂フヘキナリ

然り而シテ我々一ニ賣藥印紙ハ不  
當ノ課税ニシテ恰モ無告ノ貧病者ニ  
課スルニ過重ノ罰金ヲ以テスル者ニ異ナ  
ラスト信スルカ故ニ第一議會以來、印  
紙全廢ノ請願ヲ兩院へ提出シタル一  
再三ニシテ止マラス時ナル哉機運循環ニテ  
廿藩閣内閣既ニ倒レ民黨内閣組織セラレ我  
々同業者ハ始メテ愁眉ヲ開キ互ニ相賀シテ  
以テラタ公平至正ナル現内閣諸公ハ必ラ  
スヤ我々多年ノ希望ヲ容レルニ各

ナラサルヘシト因テ當期ノ議會ニ印紙  
税全廢ノ請願ヲ提出セント擬スルノ際  
ニ當リ却テ加倍ノ苛税ヲ賦課セラレシト  
スルノ議アリ是豈驚訝失望ノ極手足  
ヲ措ク處ヲ知ラサル者ニ非スヤ憫ムヘキ窮  
巷寒村ノ貧病者ニ科スルニ益々過重  
ノ病罰ヲ以テスルニ異ナラス悖理モ亦  
甚シカラスヤ  
以上ノ理由ニ據リ我々ハ賣藥税增加  
ノ不當ナルノミナラス其課税ハ全ク正理

ニ恃リ公道ニ及ミタル者ニシテ而シテ  
之ヲ實行スルモ豫期ノ結果ヲ収ル  
能ハスト斷言スルヲ憚カラス  
謹シテ鄙枕ヲ縷陳シ閣下ノ明鑒  
ヲ仰キ候恐惶謹言

明治卅一年十月二日

岸田吟香



守田治兵衛



吉本知信



黒澤利兵衛









